

「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた取組状況について

1 要旨・目的

全国トップレベルの高度医療の提供や医療人材の育成等の機能を持つ「高度医療・人材育成拠点」（新病院）の整備に向け、令和5年9月に策定した「高度医療・人材育成拠点基本計画」に基づく新病院の医療機能や施設整備等に関する取組状況等について報告する。

2 現状・背景

- (1) 高齢化に伴って、医療ニーズが高まる一方で、労働力人口が減少し、医療を支える人的資源が縮小するとともに、多数の症例や研修体制が充実している大都市圏の病院に若手医師や研修医の集中が加速することで、県内の医師不足が顕在化することが見込まれる。
- (2) 中山間地域においては、地方の基幹病院の医師不足により、サービス供給停止・縮小を余儀なくされ、都市部に比べてより速く、医療基盤の維持が困難になることが予想される。

【新病院開院までの流れ】 ※ スケジュールは現時点の想定

拠点ビジョン → 基本構想 → 基本計画 → **基本設計** → 実施設計 → 建設工事 → 開院
2022年3月 2022年11月 2023年9月 2024～2026年 2026～2030年 2030年

3 概要

(1) 対象者

県民、医療関係者等

(2) 実施内容（取組状況）

ア 高度医療・人材育成拠点基本計画策定会議

新病院の開院に向けた高度医療・人材育成拠点基本計画について、医療需要や社会情勢の変化を踏まえた変更を検討するため、協議を行った。

【開催日】第9回委員会（令和7年9月3日（水）開催）

【構成員】県立広島病院、県立二葉の里病院、中電病院、広島がん高精度放射線治療センター、広島県立病院機構、広島県

【議 題】高度医療・人材育成拠点基本計画の見直し（案）について

【意見等】

区分	内容
病床数の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>建築コストの上昇や人口減少などの要因を考えると開院時に 860 床程度とすることはやむを得ない。</u> ・<u>急性期病院の経営は手術件数と救急の件数に依存するが、1000 床規模とした場合においても、変更後の手術室数で十分な規模と機能を有していると考えている。</u> ・1000 床のインパクトについてはトーンダウンした印象だが、<u>人材の確保・育成が重要であり、引き続き大学と連携を進めるなど、若手医師を惹き付ける必要がある。</u> ・単に新しい病院を作るということではなく、<u>県全体の医療を支える人材を増やす大きなプロジェクトであり、予定通り、可及的速やかに進めて行かなければならない。</u> ・病床数が減ったとの報道から新病院を不安視する声を頂いており、<u>新病院の理念が維持されていることについて、引き続き丁寧に説明する必要がある。</u>
重症系病床数	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>術後に活用する重症系病床等の規模は、大学とも十分調整し、実態に合った病床数とする必要がある。</u>
道路混雑への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>周辺の道路が混雑しないように、広島市の道路部局とも密に協議を行っていただきたい。</u>

イ 地方独立行政法人広島県立病院機構の取組

(ア) 経営改善に向けた取組状況

医療連携や診療体制の強化など、経営改善に向けた各種取組を進めている。

項目	取組内容	進捗等
稼働病床数の増加	休床中の病床について、段階的に病棟の稼働を再開	<ul style="list-style-type: none"> ・新人研修の実施や社会人採用の強化（実務経験者 5 名採用）、関係病院からの看護師派遣等により、令和 7 年度当初の 587 床から、10 月より 1 病棟（西 6 病棟）を再開し、627 床を稼働予定 【広島病院】
急性期医療の充実強化	心疾患治療の強化に向け、最新のアブレーション治療機器を導入	<ul style="list-style-type: none"> ・自院での対応が増加し、経皮的カテーテル心筋焼灼術は前年同月比+11 件（7 月末） 【広島病院】
	ハイブリッド手術室の本格稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド手術室の設置が完了し、7 月から本格稼働 【広島病院】 ※10 月に心臓外科医 1 名増員予定
	内視鏡治療等日帰り手術の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・手術支援ロボットの活用等による手術症例の拡大 【二葉の里病院】

救急患者の受入強化	救急外来での患者受入強化とともに、入院が必要な患者について、内科系診療科全般で受入を強化	<ul style="list-style-type: none"> ・昼間の救急患者受け入れ強化を目指し、6月から総合診療科の専用電話番号設置【広島病院】 ※救急外来から総合診療科への直接入院は前年同月比+9件（7月末）
外来機能の強化	病院相互の診療応援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・WG等を設置し、強化に向けた具体的な取組を検討【広島病院・二葉の里病院】
紹介・逆紹介の強化	医療機関との連携を高め、紹介患者受入数を増加	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介時対応の改善に向けた、予約受付マニュアルの改善や紹介受付の時間延長に関する検討に着手【広島病院】
診療材料の共同購入	一括購入を通じたスケールメリットの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器等の購入時のスケールメリットを生かした共同交渉などに連携して取り組む仕組みづくりに向け、地域の13医療機関と連携協定を締結【3病院ほか】
業務委託の共同発注	共同発注によるスケールメリットの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業務のうち、仕様の統一が可能なものについて共同委託を検討【3病院】

(イ) ロゴマークの策定

広島県立病院機構のロゴマークのデザインについて、親しみやすいシンボルとなるよう全国から一般公募をしたところ、182件の応募があり、職員投票等を経て以下の作品に決定した。今後、新病院の開院に向けて、シンボルとして活用していく。

【採用作品】



【デザインコンセプト】

「地域と共に、未来へ羽ばたく」

本ロゴマークは、広島県立病院機構の理念を象徴する折り鶴と、「Hiroshima」「Hospital」の頭文字である【H】をモチーフにしたデザインです。

折り鶴は、平和の象徴であると同時に、「癒し・祈り・希望・回復」を象徴する広島ならではの強いメッセージを内包しています。

この折り鶴は、信頼・先進医療（深い青）、地域密着・高齢者医療（温かい緑）、心のケア・福祉医療（明るい橙）を表す3色のパーツが一体となり、専門性と地域性を活かしながら、ひとつの医療機構として羽ばたく姿を表現しています。

癒し・祈り・希望・回復の想いを込め、広島ならではの医療のあり方を象徴しています。

(3) 予算額（一部国庫）

令和7年度当初予算額 67,073,308 千円（債務負担行為額 1,249,000 千円）

(4) その他

高度医療・人材育成拠点の整備について（広島県 HP）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten.html>

（※高度医療・人材育成拠点基本計画や基本構想、各種会議資料などを掲載）



地方独立行政法人広島県立病院機構について（法人 HP）

<https://hpho.jp/>

（※機構概要、病院紹介などを掲載）

